

獣医学モデル・コア・カリキュラム 24 年度版について

尾崎 博 獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究委員会

東京大学大学院農学生命科学研究科

平成 23 年 5 月 23 日、文部科学省に設置されていた「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」は意見のとりまとめを公表しました。平成 23 年 6 月に開催された全国大学獣医学関係代表者協議会（震災のため 6 月に順延された）では、このとりまとめについて議論がなされ、今後、全国 16 の獣医系大学はこのとりまとめに沿った獣医学教育改善を行うことを確認しました。この意見とりまとめには、獣医学教育改善の柱となる以下の 5 つの方向性が明示されています。1) モデル・コア・カリキュラムの策定等による教育内容・方法の改善促進。2) 自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入など、獣医学教育の質を保証する評価システムの構築。3) 共同学部・学科の設置など大学間連携の促進による教員の確保を含めた教育研究体制の充実。4) 実習室等の教育環境及び附属家畜病院の充実や、外部機関等との連携による臨床教育等の充実。5) 共用試験の導入に向けた検討。

協力者会議の議論と並行して進められてきた獣医学教育モデル・コア・カリキュラム策定の作業もこの意見とりまとめとともに終了し、平成 23 年 3 月に公表したところです。全国大学獣医学関係代表者協議会では、このモデル・コア・カリキュラムが承認され、今後全国 16 の獣医系大学全においてこのカリキュラムに沿った獣医学教育が実施されることとなりました。

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが策定されまだ 1 年に満たない状況ではありますが、今般、平成 24 年度版を発行することにしました。その趣旨は、平成 28 年度からの実施を目指している獣医学共用試験に向けての準備です。各大学は、共用試験を 4 年次の後期あるいは 5 年次の前期終了前に実施することになりますが、学生に対してもこの共用試験出題範囲を早い時期に明示しておくことが必要と考えられます。共用試験ではモデル・コア・カリキュラムに記載されている講義科目 51 科目全てが対象となりますが、この中で共用試験には出題されない到達目標に「△」印を付しました。モデル・コア・カリキュラムは全ての獣医学生が卒業までに習得しなければならない学習項目を明示したのですが、試験という手段でその到達度を測る必要がないもの、さらに参加型臨床実習の進行とともに学習した方がよいものを印付けの対象項目としました。さらに、若干数ではありますが到達目標の削除、移動、臨床科目の総論部分の統一化、そして文言の修正も加えています。

平成 23 年 6 月の全国大学獣医学関係代表者協議会では、モデル・コア・カリキュラムの大幅な見直しは 5 年後に行うとしています。それまでの間、この平成 24 年度版モデル・コア・カリキュラムをご活用いただき、またそれとともに次回の改訂へのご準備をお願いしたいと思います。

